

別紙参考様式 2

令和 4 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立上黒瀬小学校

学校長名 税所 裕子

① 研究主題

「主体的に学習し、自分の考えを表現する児童の育成」
～国語科の書く学習との関連を核とした授業改善を通して～

② 主題設定の理由

本校は児童の主体的な学びを実現するために生活科及び総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントに取り組み、生活科と総合的な学習の時間の授業改善を図ってきた。昨年度は3つの資質・能力「主体性・コミュニケーション能力・郷土愛」の育成を目指した単元開発や学習指導をさらに充実させた。単元開発を行う中で地域素材を生かすことを重視したことで、児童は実生活の中から課題を設定し、主体的に学びに向かう姿勢ができてきた。また、国語科との系統性を意識しながら授業を行ったことで教育活動の質的向上が図られ、それは児童が作成した成果物に表れた。異学年による生活科・総合的な学習の時間のK（上小）N（ネイチャー）A（アドベンチャー）においては、縦割り班ごとに課題を設定し、協力しながら学習することを通して、一人一人が自分の役割と責任を意識し意欲的に活動に取り組むことができた。

しかしながら、児童に対する生活アンケート（6月・12月に実施）の「進んで発表したり、考えたりしています。」に肯定的に答えた児童は89.8%から78.8%と、下がっていた。また、12月に行った標準学力調査の各学年の国語科の課題を分析したところ、多くの学年で、「指定された長さで書く。」「段落の役割を理解して2段落で書く。」「自分の考えや経験したことを文章に書く。」というところに課題があることが分かった。発表したり、意見交流したりするためには、まずは自分の意見を伝えられるようにまとめる必要がある。本校の児童は、そこに課題があるのではないかと考えた。

以上のことを踏まえ、本年度はカリキュラムの修正を行い、国語科の書く学習で身につけた力を他教科での学習活動につなげていくことに重点を置く。そこで、今年度の研究主題を「主体的に学習し、自分の考えを積極的に表現する児童の育成」～国語科の書く学習との関連を核とした授業改善を通して～として、研究を進めていく。

③ 研究仮説

国語科を中心に，すべての学習活動において言葉の力を意識した授業展開をすれば，自分の考えをもち，それを表現する児童を育成することができるであろう。

④ 研究内容

- (1) 主体的・対話的な学び
 - ・ 学習者起点の課題設定
 - ・ まとめた考えを発信する話し合い活動
- (2) 国語科との関連を意識した横断的な学習
 - ・ 「書く」学習で身に着けた力を生かす学習活動
- (3) 異学年での活動
 - ・ 小規模校を活かした単元開発と実践

2 検証計画

	検証の視点	実施時期	検証の指標	達成目標
主体的・対話的な学び	児童から課題を引き出すことができたか。	5月初め 11月末	教職員アンケート	肯定的評価 3.2 以上 (4段階評価)
	自分から進んで発表したり,考えを伝えることができたか。		児童意識調査	肯定的評価 80%以上
	考えを発信する話合いが児童の対話的な学びにつながったか。	11月末	教職員アンケート	肯定的評価 3.2 以上
教科横断的な授業	国語科の「書く」学習で身に付けた力を,他教科の授業で活かすことができたか。	11月末	教職員アンケート 児童意識調査	肯定的評価 3.2 以上 (4段階評価) 肯定的評価 80%以上
	書く力が身についているか。	12月	単元末テスト 活用問題 ポートフォリオ ノート	正答率 80%以上
異学年での学び	異学年での活動により主体的な学び合いの力がついたか。	11月末	教職員アンケート 児童意識調査	肯定的評価 3.2 以上 肯定的評価 90%以上